

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果の概要と説明(第3学年対象)

1 平均正答率

国語	平均 正答率	学習指導要領の内容						観点別			問題形式別		
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
		言語の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い 方に関する 事項	我が国の言語文化に 関する事項	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと						
第一中	47.0	40.9			44.1	45.4	57.0	40.9	47.8		56.7	66.1	17.5
東京都 (公立)	57.0	51.7			55.0	56.5	65.0	51.7	58.1		67.1	75.5	28.2
全国 (公立)	54.3	48.1			53.2	52.8	62.3	48.1	55.3		63.9	73.6	25.3
東京都 比較	-10.0	-10.8			-10.9	-11.1	-8.0	-10.8	-10.3		-10.4	-9.4	-10.7
全国 比較	-7.3	-7.2			-9.1	-7.4	-5.3	-7.2	-7.5		-7.2	-7.5	-7.8

数学	平均 正答率	学習指導要領の領域						観点別			問題形式別		
		数と式	図形	関数	データの活用			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
第一中	41.0	35.4	37.8	41.3	53.3			46.3	32.6		48.9	42.2	33.9
東京都 (公立)	53.0	49.1	51.4	52.4	63.1			58.3	45.4		58.2	56.3	45.7
全国 (公立)	48.3	43.5	46.5	63.1	58.6			54.4	39.1		54.0	52.0	39.6
東京都 比較	-12.0	-13.7	-13.6	-11.1	-9.8			-12.0	-12.8		-9.3	-14.1	-11.8
全国 比較	-7.3	-8.1	-8.7	-21.8	-5.3			-8.1	-6.5		-5.1	-9.8	-5.7

理科	平均 正答率	学習指導要領の領域						観点別			問題形式別		
		「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
第一中	39.6	43.1	48.5	33.2	26.7			54.8	26.2		45.4	22.7	26.5
東京都(公立)	52.5	49.4	65.0	44.5	38.0			68.0	38.9		52.7	47.3	40.2
全国(公立)	51.5	48.9	64.0	44.8	37.3			66.8	38.1		56.9	44.9	39.3
東京都比較	-12.9	-6.3	-16.5	-11.3	-11.3			-13.2	-12.7		-7.3	-24.6	-13.7
全国比較	-11.9	-5.8	-15.5	-11.6	-10.6			-12.0	-11.9		-11.5	-22.2	-12.8

2 無回答率

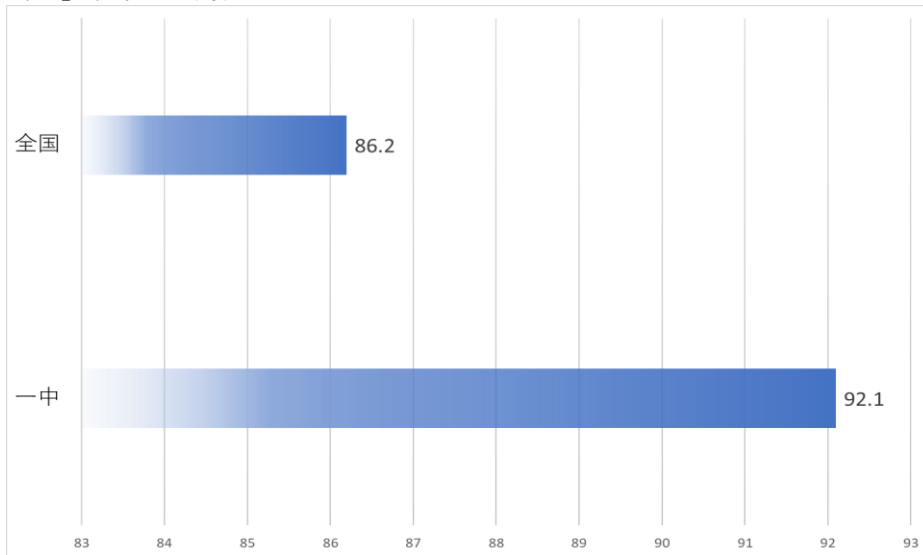
国語	平均 無回答率	問題形式別		
		選択式	短答式	記述式
第一中	9.7	1.4	28.0	17.2
東京都(公立)	5.9	0.5	17.5	11.1
全国(公立)	5.7	0.4	18.8	13.2
東京都比較	3.8	0.9	10.5	6.1
全国比較	4.0	1.0	9.2	4.0

数学	平均 無回答率	問題形式別		
		選択式	短答式	記述式
第一中	12.8	2.5	8.8	24.6
東京都(公立)	9.2	1.5	5.4	19.2
全国(公立)	10.6	1.4	6.0	22.8
東京都比較	3.6	1.0	3.4	5.4
全国比較	2.2	1.1	2.8	1.8

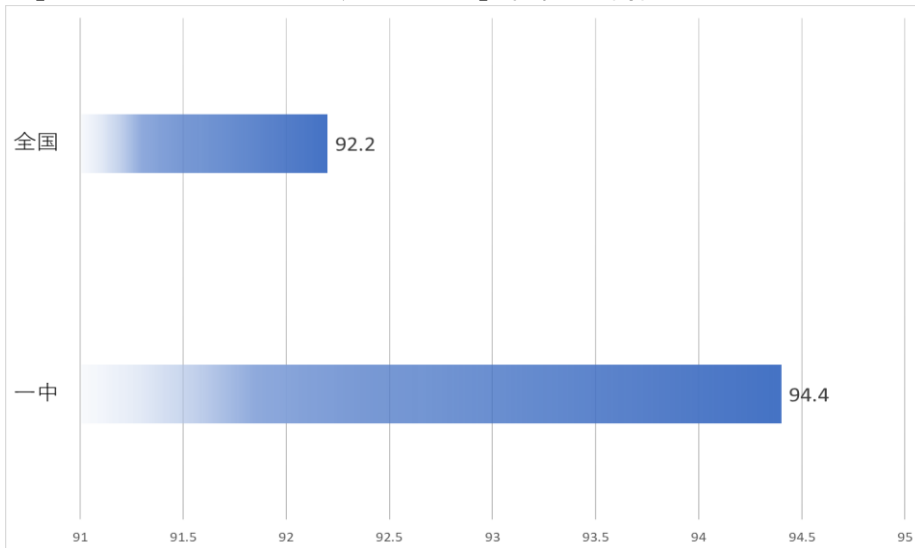
理科	平均 無回答率	問題形式別		
		選択式	短答式	記述式
第一中	3.5	0.1	15.9	9.5
東京都 比較	1.8	0.2	8.4	4.0
全国 (公立)	1.8	0.2	8.5	4.8
東京都 比較	1.7	-0.1	7.5	5.5
全国 比較	1.7	-0.1	7.4	4.7

3 生徒質問紙調査の集計結果から見える、一中生の特徴

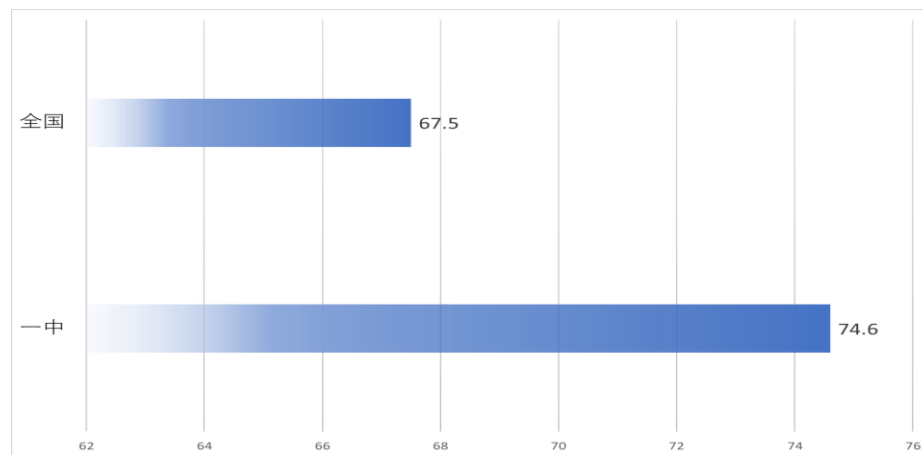
(1)「自分には、良いところがあると思いますか」で、「ある」もしくは「どちらかといえばある」と回答した割合



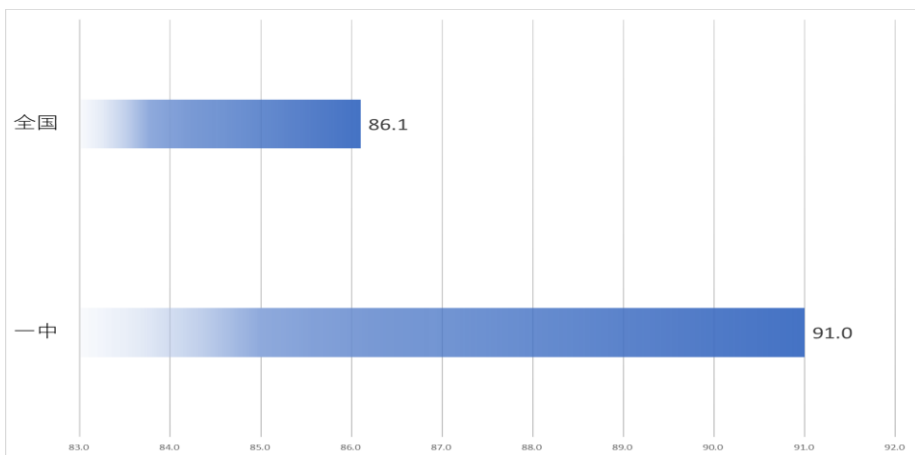
(2)「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合



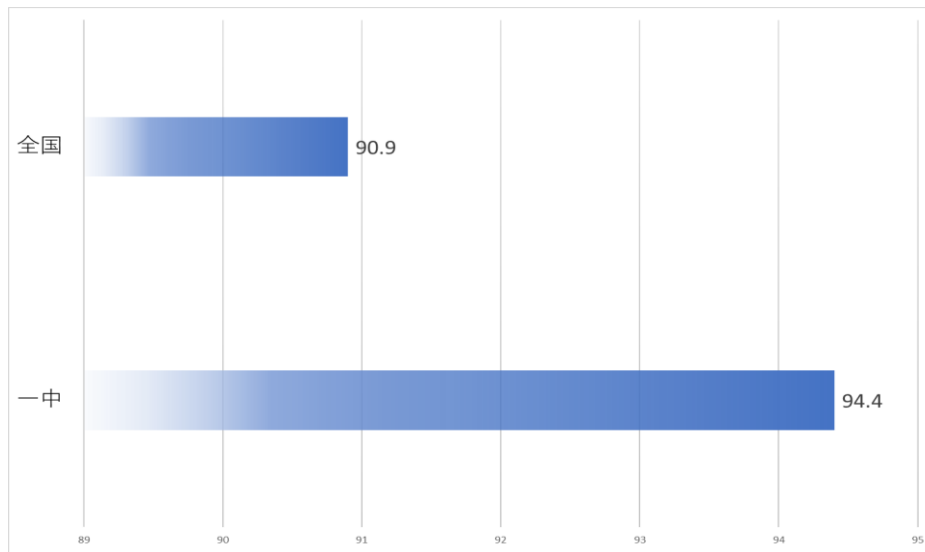
(3)「将来の夢や目標を持っていますか」で、「持っている」もしくは「どちらかといえば、持っている」と回答した割合



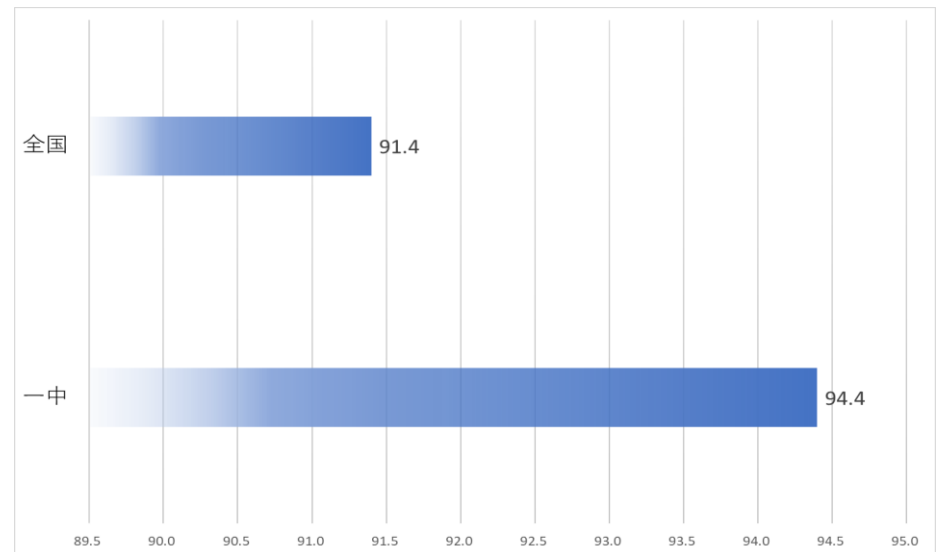
(4)「人が困っているときは、進んで助けていますか」で「進んで助ける」もしくは「多分助ける」と回答した割合



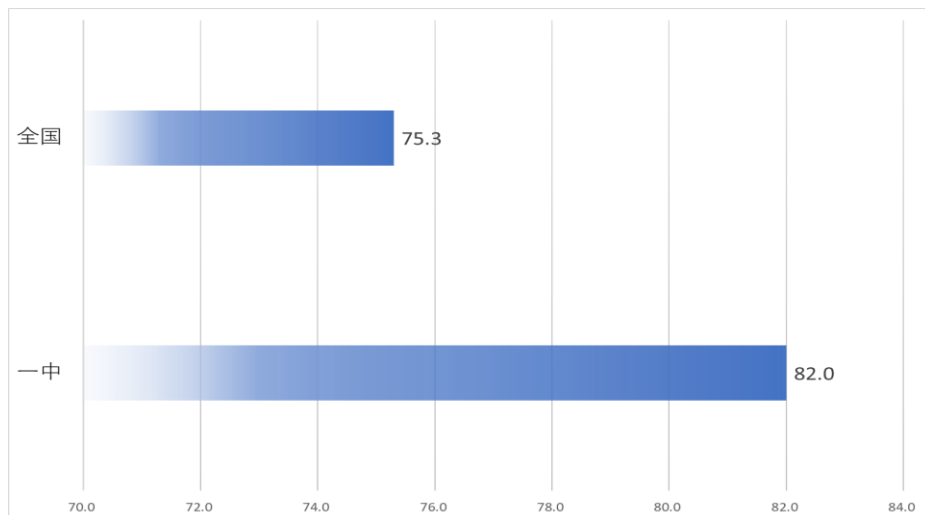
(5)「学校に行くのは楽しいと思いますか」で、「そう思う」もしくは「どちらかといえばそう思う」と回答した割合



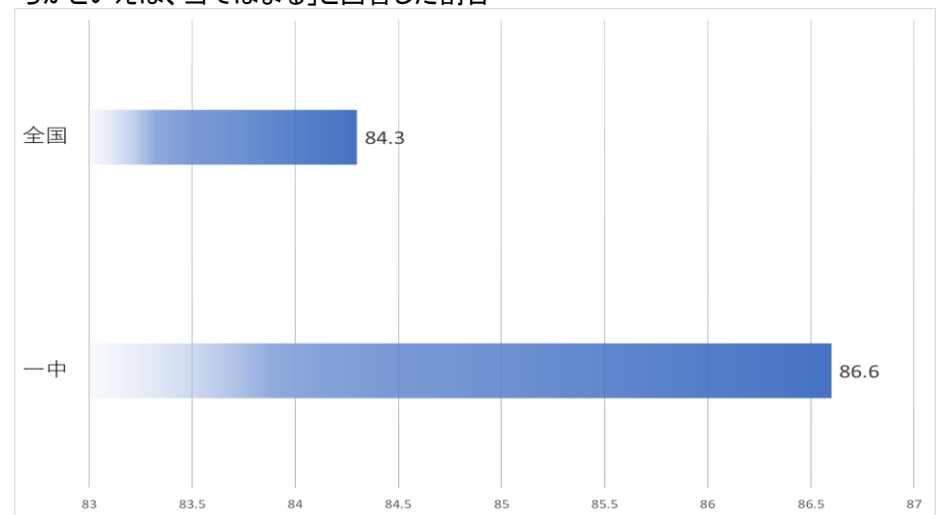
(6)「友達関係に満足していますか」で、「満足している」もしくは「どちらかといえば満足している」と回答した割合



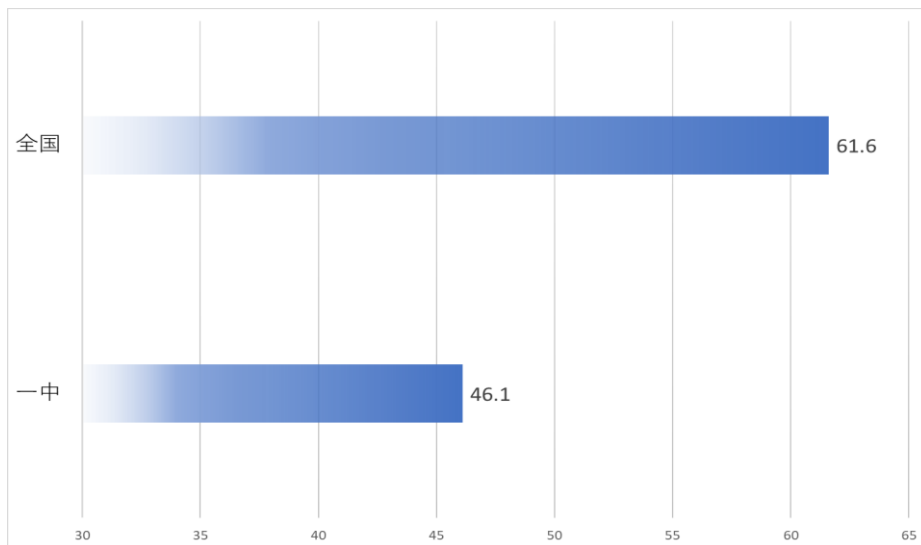
(7)「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」で、「そう思う」もしくは「どちらかといえばそう思う」と回答した割合



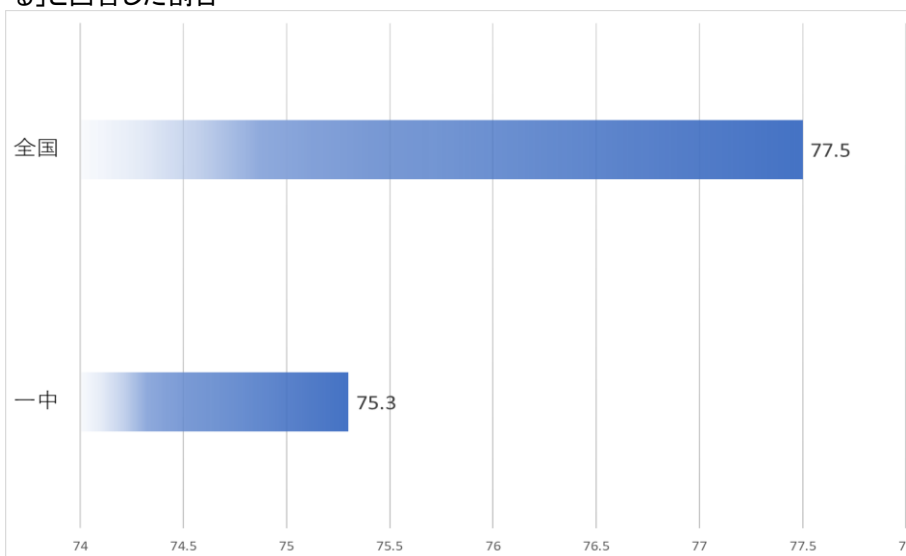
(8)「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合



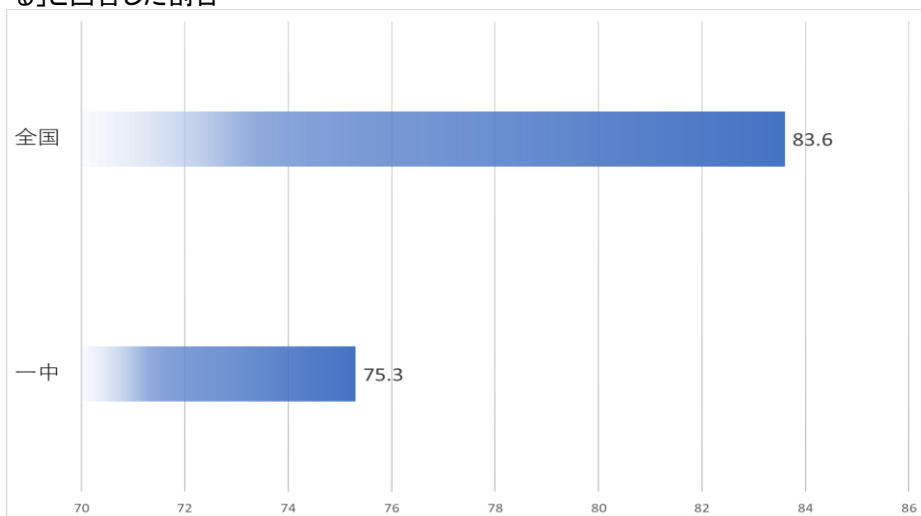
(9)「読書は好きですか」で、「好き」もしくは「どちらかといえば好き」と回答した割合



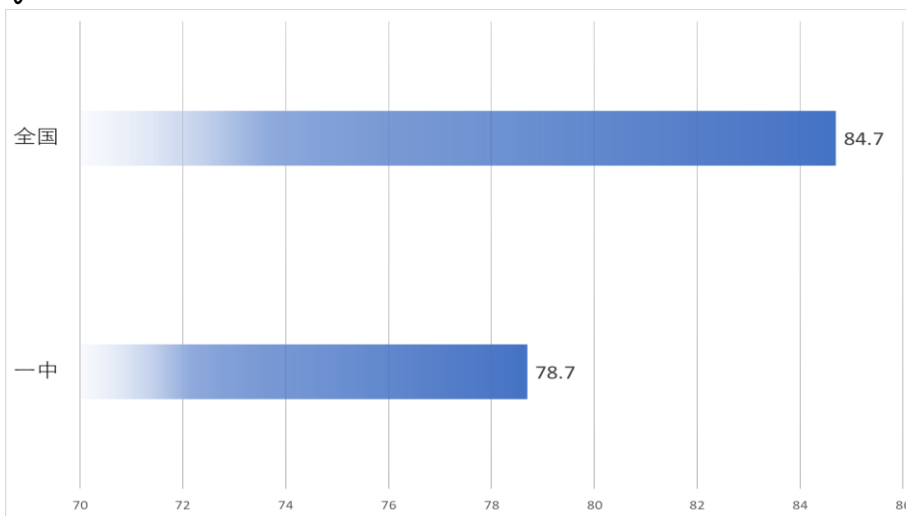
(10)「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」で、「できている」もしくは「どちらかといえばできている」と回答した割合



(11)「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると思いますか」で、「できる」もしくは「どちらかといえばできる」と回答した割合



(12)「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかとい



4 ご説明

●「1 平均正答率」から

いずれの教科も東京都の平均より10ポイント以上下回っています。特に、国語では「書くこと」、数学では「数と式」「図形」、理科では問題形式別の中の「短答式」に大きな課題が見られます。国語の「書くこと」とはまさにそのまま書くことが苦手であるとともに、数学の「数と式」「図形」においても文字式で説明をしたり、図形の証明をしたりすることから論理的に考えて書いていくことに課題があると考えられます。また、理科の「短答式」に大きな課題があるということは、設問で求められている用語を答えることができていないことから、小学校時代からの知識の欠如があるのではないかと考えられます。

●「2 無回答率」から

「無回答率」とは何も回答を書かなかった割合のことです。理科の選択式の問題を除けば、すべて都や国よりも高くなっているとともに、選択式以外の短答式や記述式になると急激に割合が高くなっています。これは、「知識がないために書くことができなかった」だけでなく、「粘り強く文章や数式などを書いていこう」という意欲の低下もあるのではないかと考えられます。

●「3 生徒質問紙調査の集計結果から見える、一中学生の特徴」から

「自分には良いところがある」「教員はよいところを認めてくれている」「将来の夢や希望がある」などで全国平均を上回っており、自己肯定感の高い子どもが多いことが分かります。また「困っている人を助ける」「地域や社会のために何かしてみたい」などでも全国平均を上回っており、他者や社会に貢献しようという意欲の高い子どもが多いことも分かります。さらに、「学校に行くのが楽しい」「友達関係に満足している」「学級内で互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている」なども全国平均を上回っており、学校内での友達とのかかわりの中で互いを尊重する雰囲気があるからこそ、友達関係に満足し、学校に行くのが楽しいと感じている子どもが多いのではないかと考えられます。

一方、「読書が好き」については全国平均を大幅に下回っており、活字離れが見受けられます。また「自分で学び方を考え工夫すること」や「PC・タブレットなどで文章を作成すること」も全国平均を下回っており、自ら努力して学習の仕方を考える子どもが少ないとともに、文章を書くことに対して抵抗を感じている子どもが多いのではないかと推測されます。「1 平均正答率」でも「論理的に書くこと」に課題があると考察しましたが、生徒質問紙からも活字離れや文章を書くことへの抵抗感が見られ、一中の子どもたちに通じる課題ではないかと考えられます。

●学力調査の結果は、「測れる学力」のうちの一部にしか過ぎず、この結果が「学力」というわけではないことに十分ご注意ください。

●また、今回お示した学力調査の結果、生徒質問紙調査の結果は、いずれも平均値であり、あくまでも本校の傾向を表したもので、全ての子どもにそのまま当てはまるものではありません。

●本校の理念「一人一人の子どもを大事にする」をもとに、学習に苦手意識をもっている子どもには、どのような支援が必要か、どのような教材準備が必要かなどを考えながら、個に応じた指導を今後も進めてまいります。